

情報システム学会新年ご挨拶

2019年（平成31年）元旦

一般社団法人 情報システム学会 代表理事

会長 伊藤 重隆

皆様、明けましておめでとうございます。

皆様に取り本年が、より良い年でありますようにお祈り申し上げます。

平成の元号も数ヶ月経ちますと改元されることとなります。皆様に新年のご挨拶を申し上げるのは平成としては今回が最後となりますので感慨深いものがあります。

今年の干支は、己亥年です。中国では干支としては豚が対応すると言われていています。ただ日本に干支が伝わった時に日本には豚がいなかったのでよく似た亥を充てたと云われています。歴史を感じます。昨年の戌年は繁栄すると言われていた年ですが、今年亥年は繁栄した状態を維持する年と言われていて、どちらかと言うと守りの年と言われていています。堅実な年になればと望んでいます。

昨年は米国の大統領が自国第一主義を各方面で推進し貿易面を初め摩擦が多く生じました。英国は EU からの離脱が国民投票により決定しましたが離脱条件交渉が長期に亘り難航しています。現在、米中貿易戦争が生じていますが、この背景には中国の IT 企業が国の支援を受け国内のみならず急成長しグローバル展開を行なっていることが大きな一因と考えられています。日本としての今後の展望はどうでしょうか。

日本は、過去、主要産業として鉄鋼、電機、自動車世界的に見ても大きな力を持ち GDP は第 2 位でした。現在は、中国に抜かれ第 3 位となっています。現在の日本における世界的な主要産業は残念ですが自動車産業のみです。電機産業においても数社は引き続きグローバル展開して健闘していますが、往時の勢いはないと思います。現在では米国のプラットフォーマーと言われる GAF A が時価総額で世界のトップ企業とされています。いわば、米国の既往の IT 企業の路線でなく情報産業を変革し結果として大企業になったと言えます。昨年 12 月、日本生産性本部より G7 各国の 2017 年データに基づく労働生産性が発表されました。残念ながら日本は最下位の 1 時間当たり 47.5 ドルで 1 位の米国は 72.0 ドルですので米国の 7 割程度で大きな差が見られます。また、日本の製造業は過去最低の労働生産性であったとのことです。発表された数値はドルベースですので円安を反映しているので割り引いて考える必要があると思いますが今後の少子高齢化社会を展望すると心配な状況で抜本的な改革が必要と考えます。

日本では、従来、各企業・官庁等は業務システムを合理化し効率的に運営することを目的に IT を利用しそのために IT 企業に情報システムを発注、長期間をかけて構築してきました。しかし現在では社会的な環境変化が速い、企業のグローバル競争が一層厳しくなっている、災害から国民の安全を守る防災・減災システムの必要性が極めて高い、また、持続的に地球環境を守る必要性がある、地域コミュニティ創生のための変革が必須である

等、社会の仕組みを情報システムとして把握し短期間に状況に応じて仕組みを大きく変革する必要性が従来以上に高まって来ています。その実現のためには労働生産性の大幅な向上を目指して、どのような仕組みとすれば働く人々が意欲を持って変革可能かを良く議論しイノベーションへとつなげて行くことが望まれていると思います。例えば企業において経営層からデジタル変革が潮流なので推進すべしとの指示ではなく、創造的に企業態を変化する、従来の慣習を打破する、社内変革する、現場を良く観察し的確な情報から事業判断することが極めて重要と思います。その際には、情報技術（AI も含みます）を情報システムにどの様に適用し組み込むのか重要になるとは思います。同時に必要なのは人間（例 顧客）の情報活動について良く分析し理解した上で情報システムを組み立てることであると言えます。

今後、AI、5G も含め情報技術が多数、社会に提供される状況は引き続きと思います。同時に人間から見て安全、信頼性のある、生命を尊重する社会とするためには人間中心の情報システムを中心概念において当学会は、理論、実証的な研究、普及活動を一層充実し幸福な社会確立へ向け努力することが望まれていると思います。皆様と歩調を合わせ一歩一歩、困難を乗り越えて前進して行きたいと考えます。

末筆ながら、2019 年が皆様に取り、幸せな年でありますようにお祈り申し上げます。

敬具